



Love in Vain (はかない恋) あさがお

2018年度 学友会入部届 集計

Table with columns for department (e.g., English, Drama, Science), grade level (中1-中3, 高1-高3), total count, and member names. It is divided into '学芸部' (Arts) and '運動部' (Sports) sections.

※兼部の生徒も含まれます。なお、三役の呼称は、部・会により異なります。

CCESの活動の様子

六月十日(日)より二十三日(土)の二週間、本校の交換プログラムのパートナーであるCCES(米国サウスカロライナ州)から引率のWill Amante先生と四名の生徒(William Stahakis君、Cooper Willis君、Aidan Owens君、Mac Mertens君)が本校に短期留学しました。

の朝、大阪北部を震源とする地震に見舞われ、変更を余儀なくされたのです。被災地域のいちはい回復と、彼らの関西旅行が今後何らかの形で叶うことを切に願います。もともと、日光への旅は新鮮だったようで、皆さん大満足だったということを付け加えておきます。今回の交換留学でも、双方から積極的な生徒が集まり、話に夢中になる姿が印象的でした。参加した立教生の英語学習への意欲は目を見張るものがあります。今後とも日米の架け橋としてのこのプログラムのますますの発展が期待されます。生徒諸君も臆せず、春休みのCCES短期留学に参加し、また、ホームステイのホストを経験することにより、立教と日本を伝えるてもらえればと思います。(編集子)



### 中学一年便り

#### めぐりあいて

最近ふとした折に、チリペッパ(唐辛子)の入ったチョコレートを食べることがあった。専門店の店頭で並べられていたそれは、チョコレートのパッケージというにはあまりに異様な、唐辛子の暴力的な赤さを前面に出したイラストで、お世辞にも決して美味しそうには見えなかったのだが、実際に食べてみると、これがなかなかどうして、心地良い辛さがチョコレートの甘さの輪郭を際立たせる逸品。癖で虜になってしまった。「梅に鶯」と言うように、世の中には定番の組み合わせが存在するいわばゴロレーションの王道、ドラえもんにはのび太くんがいないと落ち着かない、鯉には山葵も美味しいうが、やっぱり山椒。冷たいスイカを前にしたら塩は欠かせない。チョコレートだったらオレンジやナッツだったりするのだろうか、こういった王道の安心感は揺るぎないものがある。

しかしその一方「王道」は「平凡」と紙一重であって我々はいつまでも王道だけでは驚き続けられず、だからこそ我々は「冒険」することで文化を豊かにしてきた。取り合われる距離が遠ければ遠いほど、その意外さに驚き(そして「なぜ今まで気付かなかったのだろう」という快い感動を味わい)、新しい世界へと歩を進められる。チリペッパをチョコレートに混ぜた職人もきっとこんな気持ちだったのではないだろうか。

森鷗外は「サフラン」という随筆の中で、「行摩の袖」が触れ合うこと、「物語のモラルは只それだけである」と述べているが、たとえ、すれ違って別れていくだけが人生であって、そこで巡り合うことに大きな意味があるのだ。この夏が君たちにとって、思いもよらない意外な出会いに満ちたものとなることを祈ってやまない。刺戟的な夏を。

(高井祐紀)

### 中学二年便り

#### 想像力

長い夏休みを過ごす間に、一つ考えて実践してもらいたいことがある。「ごめんさい」と「ありがとう」。君は、これら二つの簡単な言葉を、とつさに言えるだろうか。小さい子に向けた質問のように思えるかもしれない。しかし、この言葉を使えるようになるためには、年齢は関係ない。幼稚園児でも素直にお礼を言える子はいらるし、一方いくつになっても、自分の非を認められない大人はいらる。中学生の君は、どうだろうか。

広い視野や想像力がないと、素直な言葉を使うのは難しい。

例えば、授業中に騒がしくしてしまい、先生から叱られたとき。一言目に「ごめんさい」と言うのは、案外簡単ではない。身を守りたい、自分は悪くない、という思いが働くからだ。「違うんです」、「僕じゃないです」……、そんな言葉が口をついて出てしまうこともあるかもしれない。

しかし、人のせいにして自分を守るのではなく、その逆が自然とできてこそ、「大人」への一歩である。何がいけなかったのか、自分の行動を振り返り、そして相手の想いをイメージすることが大切だ。

自分の頭で考えつつ、人から注意されたら「ごめんさい」、何かしてもらったら「ありがとう」。この基本を今一度、誰に対しても実践してみよう。素直な言葉は、使い過ぎかと思えるくらいが実は丁度良い。相手の気持ちを慮る想像力を持って、自分をさらに磨ける夏にしよう。

(杉原 望)

### 中学三年便り

#### 『タイムマシーン』

突然ですがタイムマシーンで『過去』に行けるとしたらどんなことをしますか?今を変えるために過去に戻ってやり直しますか?それとも過去の自分に助言をしますか?

なんと!タイムマシーンが無くて同等のことが実現可能だと言う事が判明しました!1年前、2年前、3年前の自分を振り返り、どんなことをやり直したいですか?もしくはどんな助言をしますか?さあ、考えましたか?思いつきましたか?それではタイムマシーンに乗りましょう!そして『今』の自分にその助言や変えたい行動を伝えて下さい。だって今考えたことは今の自分に足りない事や、やりたい事なのですから。

残念ながら起こってしまった過去は変えることも無かったことにすることもできません。ただ、無かったように目を背けるといって逃避行動はできません。しかし、そんなことをしても未来の自分が今の自分に対して助言をしたり変えたいと思ったりするという結果は変わらないでしょう。ならば変えられる未来に賭けてみてはどうでしょうか?

過去を振り返り、今の自分に必要なものを理解し、未来を変えてみませんか?その分析方法は数学で習った通りです。明日から夏休みにはもってこいの時間ですよ!乗るも乗らないも、あなた次第です!ね。

(砂井博光)

### 高校一年便り

#### 前期の終わりに想うこと

高校に入学してから四月、もう前期も終わろうとしていますが、皆さんは高校生活についてどう感じているでしょうか。

おそらく、教室で堂々と携帯電話を使うことができるとか、放課後に外食できること、中学と比べて細かいことに縛られない生活を自由で快適と思っているのではないのでしょうか。

ところが学習面は、どの科目も内容が格段に難しくなり、多くの時間や労力を割くことを辛く感じているかもしれません。

私の担当科目でも、暗記では対処できない、思考力や判断力、表現力を問う実力試しの問題を出題されています。じっくり時間をかけて取り組む必要があるため、かなり大変だと想像します。

経験的に言うと、前期の成績が出る頃になると、「どうせ、この科目、B合格取れないからやんのやめた」とか「マジ、この科目、意味分かんないから棄てた」というように周囲に声高々と宣言する人たちが出てきます。彼らをよく観察してみると、棄てれば身軽になる分、短期的には得しているように見えるかもしれませんが、長期的には、後で棄てたものを回収しなければならなくなってしまうので、卒業する頃に後悔したり、卒業することがよくあるようです。

一つの決断をする前に、そう言い切ってしまったら、その決断は妥当なのか、今一度立ち止まって冷静に考える必要があるのかもしれない。面倒くさいことの中に大切な成長があったり、辛いときも成長したり、スナック写真のデータを消すように、瞬時に捨てるのではなく、高校で経験する一つひとつのことに真剣、且つ、慎重に向き合って充実した高校生活を送って欲しいと願っています。

(綾部保志)

### 高校二年便り

#### 知らない世界で知らない自分に

仕事帰りの大学正門前でこやかに近寄ってくるのは去年の卒業生。「先生、ハッピーなっす!」と満面の笑みで話しかけてきた。当然のようにサッカーの話かと思いきや、授業でのプレゼンを終えた達成感だろうが、大学講義の中身の濃さに「遊ぶ時間も無いですけど!」と愚痴をこぼしながらも、これまでとは違った充実感を感じながらの大学生活を披露してくれた。

高校では勉強にクラブ活動にと高いレベルで頑張っていたはず。それなりの満足感があったはずだが、自分の知らない世界がまだまだあること、自分の未来に足りないものが多すぎることに気付かされたようだ。「ハンパないっす!」は、課題やレポートの大変さよりも、求められるレベルの高さであり、そんな生活に当たり前のようになり取り組む周りの友人との出会いに感動した言葉に思えた。加えて、苦しみながらもそんな環境で頑張っている自分へのエールでもあるのだろう。

自分が求める、予想できる反応の範囲で生活するのは安心である。しかし、誰かと繋がっているからこそ安心はそれ以上の拡がり人間を知らない世界で、予想だにしない反応や刺激を浴びて尚、どう対処するのか、何が出来るのかを考えると、人は、人としての成長のチャンス。

夏休み。いつもの仲間や自分から離れて、知らない世界で、知られていない自分ができる人間性のかを見つける機会に一步踏み出す勇気が欲しい!

(増田 毅)

### 高校三年便り

#### #卒業論

【警告】夏休みをダラダラ過ごしたい人は絶対に「読まないで!」ください!!

このように禁止されるとやりたくなるといふ人間の心理を「カリギュラ効果」と言います。騙されたって?まあせつかく読み始めてしまったのですから最後まで読んでみてください。

高校三年生にとって、今年の夏は最後の夏です。様々なイベントがある中で、卒業論に迫られる慌ただしい夏休みになるのではないのでしょうか。思い返してみると、私の高三の夏休みは、部活と卒業で埋め尽くされていたような気がします。

卒業論関係の質問を受けることが多い私ですが、そもそもなんで卒業論を書くのでしょうか?受験勉強の代わり?卒業に必要な理由から?いろいろなる理由があると思います。その中で私は卒業論は「自分の考えをまとめて相手に伝える練習」だと考えています。自分の考えを相手に伝えるというのには、この先大学でも社会にでて必要な能力です。そして考えをまとめるというのにも、AIが台頭してきた今だからこそ、求められている力でもあります。そして卒業論というものは「ゴール」ではなく「練習」です。今回の卒業論でいい結果が出なかったとしても、無駄なものではありません。

一番は卒業後、皆さんの人生の中にあります。

「意気者は自分の欲望に殺される。彼の手が働くことを拒むからだ。」(箴言二二章二五節)

高校生最後の夏をぜひ、有意義に「過ごさないで!」ください!

(佐山貴亮)

## + 今月の聖句

<sup>33</sup>If a stranger dwells with you in your land, you shall not mistreat him. <sup>34</sup>The stranger who dwells among you shall be to you as one born among you, and you shall love him as yourself; for you were strangers in the land of Egypt...

Leviticus 19:33-34

People do not always live in the same location. They move within countries mainly because of job changes. Sometimes it is voluntary, but sometimes it is a necessity. People may also change countries too. There are many reasons for this, most likely demographic in nature. But there are also more dramatic movements of people due to natural or man-made disasters, like war, economic stagnation, or oppression. Whatever the reason, some people find themselves far from home. They often have young children with them. They have a hard time to communicate or find food that they had once been used to eating. There is often a feeling that they don't fit in. Perhaps they have a chance to find good, stable work. Perhaps they don't and are safe, but have too much time waiting for a proper job. There is also a chance that they have had a recent very traumatic experience. Perhaps along the way, they have met very hard times including physical or mental abuse. There are many things that people who have immigrated or have had to immigrate experienced. What they don't need is more alienation, more difficulties, more instability. That is why God admonished the Israelites to take care of any person who was a stranger in their land. They had experienced many hardships as immigrants and so they must never do to others what had been done to them. Indeed, they must take care to make sure any stranger be treated exactly like family. If you are traveling overseas this summer, you too will be a stranger and hopefully be treated well. When you come back, make sure you keep your eyes open for someone who is far from home, living in Japan, and might be feeling alone or even mistreated. Even if you have not travelled overseas this summer, make an effort to be aware of those other than your own nationality. We are all children of God and live on the same earth. Try to erase the borders that exist on the map and in your mind. "You shall love him as yourself."